

1 インフルエンザはどうして高熱が出るのですか？

インフルエンザウイルスは、肺に通じる空気の通り道である気道の細胞に感染します。気道の細胞はバリア機能により、インフルエンザウイルスの侵入を防御する働きがあります。さらに、炎症性サイトカインというウイルスを攻撃する成分が産生されます。炎症性サイトカインが過剰に産生されるウイルス感染症は、サイトカインにより感染したヒトは高熱となり、肺炎などさまざまな合併症を引き起こすことがあります。

検査のはなし vol.13

専門医が解説する 病気の検査 …8

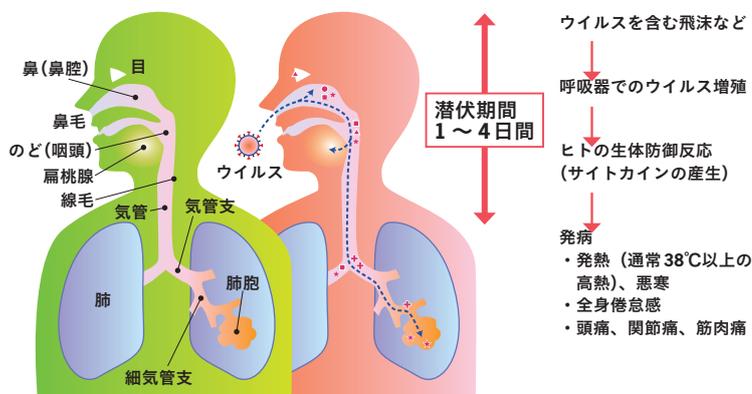
「感染症の検査：インフルエンザ」

日本臨床検査専門医会
三宅 紀子

2 どのような場合にインフルエンザに感染した可能性があると考えられるのですか？

インフルエンザはA型、B型、C型があります。このうちC型は一度感染すると免疫が成立し、再感染が少ないといわれています。A型とB型は冬期を中心に流行します。A型は高熱や悪寒、筋肉痛、せき、鼻水などの症状が多くみられます。B型は発熱、腹痛や嘔吐・下痢などの消化器症状を伴うことがあります。そこで、冬期を中心にこれらの症状がある場合はインフルエンザウイルス感染を疑います。

インフルエンザ臨床症状



迅速検査の原理

イムノクロマト法という測定法でインフルエンザ抗原を検出します。尿で調べる妊娠検査もイムノクロマト法が用いられています。また、新型コロナ感染症にもウイルス遺伝子を検出するPCR法以外に、イムノクロマト法を用いた抗原検査が活用されています。

3 インフルエンザウイルスの検査で陰性ならば、インフルエンザではないと考えてよいのですか？

現在、診療で行われるインフルエンザ検査のほとんどが、インフルエンザ抗原を検出するための迅速検査です。迅速検査の多くは鼻汁や咽頭ぬぐい液を採取して、そのなかにインフルエンザ抗原が存在するかを調べるものです。数分から20分程度で結果がわかり、早期にインフルエンザ治療を開始できることがメリットです。しかし、迅速検査はすべてのインフルエンザ感染例を見つけることはできません。鼻汁や咽頭ぬぐい液を採取した時期に、インフルエンザウイルスが少量の場合には、偽陰性となることがあります。検査の感度が向上することで、偽陰性は減少することが期待されますが、現在の感度は50〜80%程度です。

迅速検査で陰性でも、インフルエンザウイルスに感染している可能性があります。このため、発熱、筋肉痛、腹痛などインフルエンザウイルス感染症の可能性がある症状の場合は、症状が出現してから5〜7日間は自宅療養することが大切です。